

総合心療センター 作業療法室

室長 山内 学

---

**当部門について**

今年も、スタッフの増減もなく4名体制にて入院及び外来作業療法に取り組んでいます。しかし、作業療法におけるコロナ感染対策は継続しています。そのため、プログラム内での制限につながっています。活動性の向上や表現力の向上に伴う対人関係の影響は大きいです。時間や回数も必要性もあり、効果が出るまでに至らないこともあります。また、間接業務としての準備への時間や教材提供への負担も多くなっています。スタッフにより、治療の進展が遅いことや入院を意識しての発言も多くなり必然的にミーティングを持つようになっていきます。このアセスメントの確認と現状での患者理解と提供できるものを言語化することでチーム理解が進んでいます。また、環境だけではなく患者層や疾病の特性による影響にて参加が少ないこともあります。その場面での作業療法の提供の難しさはあるが、小集団やスタッフ個人のかかわりや活動を駆使しながら運営することを行っています。あきらめないことや継続することのサポートをスタッフ間で共有しています。経験年数のあるスタッフ構成であるため、個の力量が作業療法場面での活用としても出ています。

精神科急性期治療病棟における回復度を上げることについての意識付けは他部門とも連携しています。今後は、外来作業療法の定着から移行への外来サポート力のアップが課題です。心理教育や集団力動を用いたプログラムの復活への取り組みも行う予定です。これまで以上に多様になりますが、精神科作業療法の効用を各部門と行っていきたいと考えています。